現地の動き

ゆとりを目指すレタス産地づくりへ

（包装機導入による規模拡大を！）

1．はじめに

西牟婁地方のレタス生産は最盛期（昭和53年頃）に比し１／３位まで減少している。

この原因はいくつかあげられるが

1. 連作障害（病害虫発生）
2. 高齢化
3. 労働力不足

が主たるものである。

現在ではこれ以上面積を減らさないようにと関係機関がこぞって取りくんでいるところである。

新政策（近畿版）の野菜の項に掲載されているように、野菜産地の整備強化と産地の中核となる経営体の規模拡大、コスト低減を図るとともに、労働強度の軽減等を図り、ゆとりある経営を実現していくことが重要である。

そのために農道網等の整備や規模拡大に対応した定植機、収穫機等効率的な機械の開発導入により省力化、機械化を行う云々……とされている。

2．取組み内容

こうした背景をも踏まえ、何とか具体的に拡大するための手だてとして西牟婁野菜花き技術者協議会が中心となって取り組んだのがレタス省力化モデル一貫体系実証展示(図１)である。

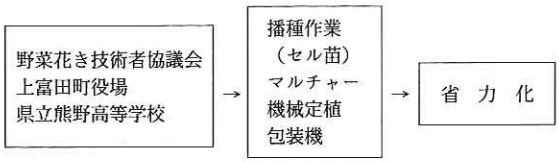

図１　レタス省力化一貫体系モデル実証　（場所：上富田町大芝）

野菜生産農家を対象に各種機械の実演会等を開催し生産者共々検討を加えてきました。こうした機械化体系を取り組むことによって、従来の栽培法より労働時間が30%程度（表１）軽減されることになる。

表１　これだけ下げられる10a当たり労働時間

	播種	整地施肥	マルチ	定植	防除	収穫	計
モデル	40	5	2	3	22	154	226
慣　行	40	36	8	16	22	200	322

この機械化体系の中で一番評判の良かったのが、包装機（写真）であった。

平成５年度で15台の導入（いずれも活山事業による。同時に無利子の農業改良資金の利用も呼びかけている。）があった。

レタス包装機の長短所を述べてみると

〈長所〉

1. 作業能率は手作業の５～６倍（１時間で500～600玉包装）
2. 夜なべ作業がなくなり精神的負担解消
3. 仕事を追いながらできるので、たえず若どりできる。

〈短所〉

1. 機械代が高い（平成５年度で約180万円）
2. 包装紙が高くつく（階級に関係なく１玉約８円位になる）
3. 包装紙の切りクズの処理に困る。

3．今後の方向

以上の長所、短所を熟知してレタス産地復興の切札になるよう積極的に包装機導入＝規模拡大＝ゆとり（精神面、経営面）が実現する。

思案するより実行を合言葉に新しい時代のレタスづくりを目指していくことである。

（西牟婁普及所）